

第 10 号

1988年10月22日発行



## 「そしん」10号によせて

田代哲郎

## 私たちの願い

新報作りはエネルギーの要る仕事だ。だが、以後力を注いで行きたい。これが内に向っての願いである。一方私達は外に向って私達一学年を表現したい、と思いつつしている。

「そしん」になつて本当の新聞になつた。  
「そしん」を学院自身としてみれば、少々手前ミソになるがなかなかすばらしい新聞であり、学院の成長を表わしていると言えるのではないか。

ついている。  
そのためには、まず私達の存在を知つていただきたいと思うし、知つていただくには、知つていただかにく程の価値を我々自身に持たたいと願うのである。そこに我々の日々の努力の意味がある。  
「そしん」はその媒体として大きな役割を持っている。  
発行部数一、〇〇〇といふことはそれだけ多くの人々が我々を見守っていることであり、その人々に対して私達の日頃の努力を約束しているということである。  
内なる自分に対して叱咤しつゝ、外に向っては我々自身を大いに表現していく。  
このことにより交流の輪がさらに広がることを期待したい。(施設長)

人はそれぞれ「分を取りま  
外界に向つて様々な願いを持つ  
いる。外界ばかりでなく自分に  
しても自分を客観視しながら願  
を持ちつつ生きている。

「そしん」は学院にどこでは自分であり、その自分に向つての願いを持ちつつ外部に様々な願いを持つている。

の自  
現であります。省である。

# 第26回 全国精神薄弱施設職員研究大会 大会に参加して

守 永 義 輔

第26回全国精神薄弱施設職員研究大会が、9月15日より17日まで岩手県盛岡市で開催され、私は四年振りに全国大会に参加しました。

私が選んだ第三分科会は「地域とのかかわり」が研究テーマであり、前年福

井市で開催

された大会  
にも同じテ  
ーマが提起  
され、当時の  
記録によると  
「地域に根ざ  
した施設作り」  
が着手されてお  
ります。

今大会に於ては、施設対地域社会の単なる交流に止どまらず、百尺竿頭更に数歩を進め、行政機構を包み込み、施設と地域社会とは渾然一体となり社会福祉の向上に活動開始の実体を報告されております。

大会では福祉エリアの構想が発表され、その規模やエリア内の活動実績が報告されていることは、これを明瞭に裏づけるものであります。シンポジウムの中で特に感銘深く胸を打たれたのは、在宅重症児の親が日頃の悩みを卒直に訴え、次のような切なる要望を打ち出されたことがあります。

「施設職員の皆さんは施設居住の障害者に対し、献身的な療育をなされることは誠に感謝に堪えませんが、その地域社会には多数の老若男女の障害者が、近親者の手により協力者の励ましを受けて同じく人間として生き抜こうと努力していることを忘れないで下さい。福祉とはすべての人の幸福につながるものでなければなりません。有力な施設の方には特にお願いがあります。ティーサービスで老若男女の壁を取り払い、各種障害者の垣根を乗り越え、誰もがつどい、睦み合い、励まし合う共通の広場を提供して貰えないでしょうか」

21世紀に向って素心学院の方向づけに、これらの事実は何等かの示唆を与えていたりませんか。

【理事長】

## 素心ニュースに想う

水澤孝幸

もう25年前になろうか、小さなポンネットバスが道巾いっぱいに、木の葉とたわむれながら大磯の山道を通つていた。当時の道



と赤ペンキで書かれていた。これが私と素心との初めての出会いである。

当時は借家住いで、数年後どういうわけか素心の近くに土地を求め移って来た。それからが本格的なお付き合いになり、今日に至っている。人間と動物の違いは、身体に障害をもつ弱者に対する態度であろう。動物社会では障害をもつ仲間を冷酷に放置するが、障害者に生きる権利を認めていたわるのは、人間社会のあかしである。その人間社会の一翼をなう読者の皆様と共に、私も「ほんの少しのお手伝い」に心がけたいと思っているが、その至らなさの嘆きはつきない。

この素心ニュースも、人間社会のあかしを綴つて、やっと10号になった。世代は変っても人間社会はつきない。100号が発刊される時代は、どんな社会であろうか。

永遠に人間社会のあかしを綴ってもらいたい  
【後援会会長】





## 旅にーあわせ

《実習A班》 飯田倭江

森閑とした境内に、激しく息をはずませて、やっと辿りつく。立する大木の隙間から、木もれ日がわずかに地上を照す。その光の中に老婦人の姿が浮かびあがる。それは、ある夏の日盛りに、百十数に及ぶ石の階段に、興味を抱き、かなり努力して上った時に、出逢いし、伺つたお話をある。

「三年前に、足腰に痛みを感じ、加療したが一年後には、一人で歩く

ことができなくなってしまう。すでに余白の日々ではあるが、もう少し快く過すためには、自分の力で歩くことではなかろうかと、真剣に考え、それは無謀であること

を承知で、以前から関心のあったこの神社の石段登りを、手で這い上ることから六ヶ月余に、成功した」と。

活躍する中に、街は感じられない。今七十八才のその時を重ね合わせることは、到底できないが、老化とは、今迄できていたことが、できなくなることも云われている。

これが世の習わしとするならば、この先人の方の、人生の終わりの部分とも云える中での、自分との闘いは、命の力の完全燃焼と言え

林立する大木の隙間から、木もれ日がわずかに地上を照す。その光の中に老婦人の姿が浮かびあがる。

それは、ある夏の日盛りに、百十数に及ぶ石の階段に、興味を抱き、かなり努力して上った時に、出逢いし、伺つたお話をある。

《基礎作業A班》 森田千里

## 人として

人として  
森田千里

先日、岩手県のある施設をたずねた折、そこの施設長が、「神を前にして我々は皆等しい」と言つていました。その時私は理解する事ができなかつたのですが、広大な草原と山と川に恵まれた土地の中で羊と豚と牛と共に汗する青年達と一緒に仕事をするうちに、自然を前に、いえ、この大自然の摺理を前にして、人は皆等しいと感じました。

自然の摺理を前に人は謙虚さを知恵とし、生きるに値する価値ある同志とはぐくみ合い、その恵み

を日々の糧とする——そんな当たり前の事に深く感動しました。共に生きる、平等、よく言われています。そういう自分の姿をみると、やはり健勝者の立場で言っているのだと恥かしく思えました。障害を持つ者がいつもただ単に理解され、認めてもうう対象として存在しているのではなく、互いに弱さを認め合い、心豊かな人として育っていく——ただ理念としてだけでなく、日常の中でそういう事が当たり前の状況をつくっていくことが必要な事だ……こんな当り前の事で、簡単な言葉で言われてみれば「わかってるさ」と思つていた事が、年月をつみ重ねるごとにその重みを増していくような気がします。最近また体重が増えたのは…気のせいだと信じたい。

【イエイエ、大自然の摺理ですゾ!】

## 事情

紹介しましょう。朝は六時半から夕方六時まで一周年中休むことなく動いています。台所で働いてい

〈栄木〉 売る人は七人(栄養士も含めて)ですが食事のほとんどは手作りです。集団給食(一回の食数)100人前後)であります。家庭の味に近いものを出したいと思つてます。

「先生! 今日のお屋さんは何? タコはんは? あしたの朝は? オヤフは?」何人の院生の方にあいさつ代りに毎日聞かれます。嗜好も人それぞれでみんなに喜んで食べてもらえるような献立をとおもに思つてます。以前は休みに釣行つて、夏の盆踊り大会、クリスマス会などは台所で行事食も春のお花見弁当にはじまつてます。

といわれるところと、うれしい。以前は休みに釣行つて、夏の盆踊り大会、クリスマス会などは台所で行事食も春のお花見弁当にはじまつてます。

「先生! 今日のお屋さんは何? タコはんは? あしたの朝は? オヤフは?」何人の院生の方にあいさつ代りに毎日聞かれます。嗜好も人それぞれでみんなに喜んで食べてもらえるような献立をとおもに思つてます。

★原稿書きなんて大嫌い……だけどお酒は大好き!!!! いつも暖かくておいしい物をと心が見えて楽しい。【米倉和子】

★素心に勤めて2年半になるかな。以前は休みに釣行つて、夏の盆踊り大会、クリスマス会などは台所で行事食も春のお花見弁当にはじまつてます。



★ブレハブの炊事場からは院生の様子がよく見えて、とても親近感を感じています。

★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



ドに来て、少しすつだけどみんなの顔も覚えられ、親近感を感じています。



★工事のために炊事場がグラン



台所で家事をしていた私が異変

に気づいた時、千津子は新しく貰つてもらった黄色い傘を投げ、ウーンとうめいていました。

それから四十度以上の熱が一週間もさがらず、当時一本二万円もあるベニシリソ注射を毎日うつても、やっと熱がさがったと喜んだのもつかの間……それから悪夢の日がスタートしたのです。

高熱によるひきつけが炎しくて、知恵遅れになってしまったのです。

七才のお誕生日を迎えて一ヶ月経った頃でした。

千津子の妹が五才、保育園に預け、注射代をお返しする為に私共夫婦は、朝から夜まで働きました。そして福祉事務所の門をたたいた。そして福祉事務所の門をたたいた。そして福祉事務所の門をたたいた。

千津子の妹が五才、保育園に預け、注射代をお返しする為に私共夫婦は、朝から夜まで働きました。そして福祉事務所の門をたたいた。そして福祉事務所の門をたたいた。

千津子の妹が五才、保育園に預け、注射代をお返しする為に私共夫婦は、朝から夜まで働きました。そして福祉事務所の門をたたいた。

千津子の妹が五才、保育園に預け、注射代をお返しする為に私共夫婦は、朝から夜まで働きました。そして福祉事務所の門をたたいた。

千津子の妹が五才、保育園に預け、注射代をお返しする為に私共夫婦は、朝から夜まで働きました。そして福祉事務所の門をたたいた。

千津子の妹が五才、保育園に預け、注射代をお返しする為に私共夫婦は、朝から夜まで働きました。そして福祉事務所の門をたたいた。

## 理事会の動き

◆ 第84回理事会報告

昭和63年3月12日(土)に第84回理事会が開催されました。会員の任期満了に伴う改選について、前回に引き続き資金計画の見直しを含め検討され承認されました。

昭和63年3月14日(土)に第85回理事会が、横浜ウェディング玉姫殿会議室にて開かれました。7名の役員が出席し、次の通り審議、決定されました。

昭和63年5月31日付でそれぞれ就任することが決定した。又、理事長には互選で守永義輔氏が選ばれました。9名の役員が出席し、次の通り審議、決定されました。

昭和62年度事業報告及び決算案について承認されました。全役員の任期満了に伴う改選について、前回に引き続き資金計画の見直しを含め検討され承認されました。

昭和63年5月31日付でそれぞれ就任することが決定した。又、理事長には互選で守永義輔氏が選ばれました。9名の役員が出席し、次の通り審議、決定されました。

昭和62年度事業報告及び決算案について承認されました。全役員の任期満了に伴う改選について、前回に引き続き資金計画の見直しを含め検討され承認されました。

昭和62年度県監査指揮事項の「役員の理事会への出席率を高める件」について説明があり、努力してゆくことが確認されました。

その他、昭和62年度県監査指揮事項の「役員の理事会への出席率を高める件」について説明があり、努力してゆくことが確認されました。

## 後援会加入のお誘い

みなさん// 素心学院後援会に入りませんか。

私達は素心学院の運営を側面より援助し、わずかでも障害者の福祉に寄与できたらという主旨で、後援会活動を行なっています。

会員一人一人の事情にあわせた無理のない、いろいろな協力や参加の形を考えております。

### ■主な活動内容

- ① 会員を扶やそう！
- ② 資金を集めるためにバザー等を行なおう！
- ③ 素心学院でボランティアをしよう！

会費は年額 一口1,000円です。会員には素心学院新聞が郵送(年2回)され、また毎年5月には総会が開かれます。

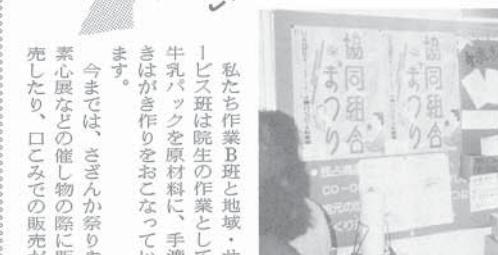
入会案内書をお送りいたしますので、後援会事務局までご連絡下さい。

素心学院後援会長  
水沢孝幸

●事務局  
〒259-01 神奈川県中郡大磯町虫塚24  
素心学院内 [担当一彦坂]  
Tel<0463>71-1255番

手渡きはがきの販売コーナー<sup>◆</sup>  
CO-OP大磯店にできる!  
皆様には牛乳パックの回収に  
ご協力いただきありがとうございます。

又、昭和63年3月の施設整備費総額約2億円のうち1億4千万円を社会福祉医療事業団より借り入れる事等について承認されました。



CO-OP大磯店店内に設置された手渡きはがき販売コーナー

手渡きはがき販売コーナー<sup>◆</sup>  
協同組合 まつり  
大磯店

私たち作業B班と地域・サービス班は院生の作業として牛乳パックを原材料に、手渡きはがきを作りをおこなっています。

今まで、ざんか祭りや素心展などの催し物の際に販売したり、口こみでの販売がどうぞ、ご利用下さい。

基準作業A班・作業A班・作業C班の3班で回収作業を行っています。古新聞・古雑誌・古着・ダンボールなどありましたら気軽にちよどく!と

声をかけて下さい。

また、大磯・二宮地区的電話での回収も受けております。

下さい。

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

112555

九月二日から長い間休ませていただきまして有難うございました。大変迷惑をかけてしまいましてすみませんでした。お蔭様にて、通夜、葬式、三日参り、初七日、形見分け、いらぬもの処分等、大体のことをして帰ってきました。

## 母のこと

（実習A班）岩崎倫子

この四月には、八十五才で一人で東京に遊びに来て、一ヶ月間過ごし、帰り名古屋での親戚の結婚式を走っていると、30km高速道路を走ると、おきにサービスエリアがあるが、そこにはあまり利用されることのない障害者用トイレと障害者の乗った車の駐車スペースがあり目とまらない施設のようである。お盆や連休の時は大変混雑するが、そのスペースだけがボツンと穴があいたようになっている。

## 駐車スペース

（経理）投野辰美

私は心学院にきてまだ間もないのですが、院生はみな私より年上でした。そして彼らの歴史はどういうものであったかも明確には知りえませんでした。そのためか指導ということには抵抗が強く、それをそのまま消化してしまうことに、人としてのおごりを感じました。そんな時、「共に生きる」「共生共育」という短かい言葉が自分を支えてくれたように思います。「共に生きる」といっつん簡単に受けとれそうな命題は、とても深く、実際、それをを目指した時は大変なことではないかと考えます。自分が現在、生活をしていることが、全く自分の努力によるものではなく、自分の理解を超えた諸条件によって成り立っていると考えた時、障害者・下層労働者・外国人労働者といった、社会的の矛盾の凝縮された部分とどう関連させて自分が同じ地平に立つか？また、何ら問題なく、意識しない人々とどう結びつくのか？考えだすと尽きない程、課題があると思います。

しかし、自分の行きつく考え方と実践とは、ひどくギャップがありどこから埋めるかに苦慮します。

そんな状況でも、全く私の理解を超えて、明るく過ごす院生の姿を見ると人間の本質的な力強さを考えます。

私はフーテンの寅さんが大好きです。ある映画評論家が何故寅さんがいいともいつもあるのは、寅さんがいつもいつもあちこち旅をして回り、その土地でいろんな人とめぐりあい、そして又自分の奥（おだんご屋さん）に戻ってくる。

「人として」というテーマはとても難問題で、すぐにはその答などさせません。ただ普段から考えていたことと、今、問われているテーマを少しでも結びつけて述べてみます。

私は心学院にきてまだ間もないのですが、院生はみな私より年上でした。そして彼らの歴史はどういうものであったかも明確には知りえませんでした。そのためか指導ということには抵抗が強く、それをそのまま消化しま

す。ある映画評論家が何故寅さんはいいともいつもあるのは、寅さんがいつもいつもあちこち旅をして回り、その土地でいろんな人とめぐりあい、そして又自分の奥（おだんご屋さん）に戻ってくる。

## 寅さん

（作業D班）土井直樹

そういう寅さんは映画を見ている人はうらやましがつたり寅さんを自分と並ぶさせて見ている。……と言った事を聞いた時、大いに良くなり見えるといいます。寅さんはとなりの芝居で、中から出てきたのは、皆健健康康な家族の人達であった。すぐなくともそう思えた。これが平均日本人の姿のようである。

米国カリフォルニア州にヨセミテ国立公園というところがあるが

昨年の夏そこで3日間友人とキャンプをした。友人が管理センターで予約をとっている間、その前の2台分しかあいてない駐車スペースに車を止めさせていたのだ

とあります。お母さんはとてもきれいでした。

お母さんありがとうございます！！

</

招かざる客

和親達にあいさつをしたり世間話をしたり、人と話すことは普段何気なく行っていることですね。  
人と話せることが不便だとか、難しいと感じることはめったにないと思います。それどころか、こ**とばが話せることは、自分の気持**

ちや考えや意志をいとも簡単に他人に伝えられる手段であるわけで、すからなんて便利なことでしょ。ことばを使って話すことが簡単であるからこそ世間話も楽しいのでしよう。

しかし、どのことばをどのよう

に使うかによって、ことばがひとり歩きをしてしまうことがあります。兄弟喧嘩などは例で、ささいなことが発端であっても乱暴な言い方をしただけで相手を怒らせ、しまいにはどちらかが泣かれて幕を閉じる…。なんてことはよくあることでしょう。

ことばを上手に使いこなせないのはほとんどに限ったことではあります。私なんかは自分でことばを使っているにもかかわらず、ことばの奴が勝手にひとり歩きをはじめ、私の意志に反することを相

手に言いふらし、呼びたくもない客を勝手にまねくのです！これを俗に「調解をまねく」といいうようです。この招かざる客はとても厄介な奴でして、ことばの主である私は、この客がいつから住み着いているのかも知らずにいるのです。気がつけば「時すでに遅し」で私の隣近所の人々の心に込みつき、食い散らかしているのです。私はそのたびに「ひとと話をすると」といふことはなかなか離しいものだと思う今日このごろです。

生甲斐 大嶋悦子

る心のゆとりが出来た。  
そしたら、その一つに、子育て  
があつた事に今更ながら気付き果  
然とした。『子育て』が生甲斐だつ  
たなんて……。  
ごく一般の家庭の主婦は、これ  
が子育てだ。なんて、意氣込んで  
やっているとは思えない。それは  
自然に育て上げるものであるにち  
がいないからだ。  
私の『子育て』は、本が終りに  
近づいた。完全に終る前に次の生  
甲斐を探さなくてはならない。そ  
れも、終りのないものを……。と  
欲ばっている。何故ならば、誰も  
が願う様に、私も美しく老いたい  
という願望を、心に秘めているか  
らである。

が、新婚早々で25歳の奥さんがいつもベッドの脇で世話をしていた。物静かな、皆の話をうつむきかげんの笑顔で聞いている美しい奥さんだった。

ある日、Tさんは病状の変化のため、内科に移っていた。突然、だつたため荷物は置いていた。三日後の朝、奥さんは荷物を取りに来た。「Tさんはお元気ですか」と聞くと「はい。皆さんも大事に」とうつむきかげんの笑顔で出ていった。朝食後、内科に見舞に行くとTさんのベッドは空っぽだった。掃除のおばさんに聞くと、「夜中に死んだよ、奥さん朝まで泣いてたよ」と答えた。

亡くなつてわずか三、四時間後に荷物を取りに来たのに、同病の人達のため、うつむきかげんの笑顔だった。

私が始めてんかんを持った人を知ったのは小学6年の時である。クラスの子が授業中発作をおこしたのを見た。その子はその一学期の夏休みに家の階段から落ちたとのことで「死んだ」。家にいたら友達が知らせに来てくれた。まあまことに突然の事であった。それから私が成人になつてAさんの事を知った。彼女は小学生の時に度発作を起こしたきりで高校生になつて発作がひん發した。両親は医学的には無知であったが彼女を普通に育てた。医師にかかり治療を受けたが発作は止まらなかつた。しかし彼女は普通に生きようとした。発作がある度精神的・肉体的にダメージや周囲の人々の無知によつて発作が起きるかわからぬといふ不安感を常に持つていた。結婚する見にもあつたが負けなかつたらしく心の中には自分自身の障害に対する心の中には自分自身の無知から脱脚しようと努力するようになった。転

# カレント団体 頒布に携わつて

(庶務) 滝沢 正一

早や六年の歳月が過ぎましたが、ありがえつて  
みますと四十八年に五百冊から始まり、バトンタ  
ッチした五十七年は八千冊、名入れ三十三社。六  
二年は壹万プラス六百冊、名入れ三十五社と、十  
六年で七倍強となりました。

これも偏に皆様方の暖かい御支援、御協力の賜  
と厚く御礼申し上げますと共に七月から始まつた  
女子棟改築工事の為にその資金を土台として、今  
後もより一層院生にとって快適な住環境整備の為に  
と今年は、壹万冊プラス九百冊、名入れ三十七社  
で動き出しております。

院生職員共々、日々の作業に汗しております。

今後共皆様方の暖かな御支援を賜りますよう宜し  
院もし、専門医にかかるようにな  
り現在2人とも発作は止まつてい  
る。現在彼女は職業に就いている。  
Aさんのことについて私が思うの  
は本人の病気負けな  
い意志と普通に生きる  
事を援助してくれた身内  
の人の理解(知識も必要  
とする)である。障害を持  
つた人全般に言えること  
は本人と本人をどりまく  
は本人と本人をどりまく  
は本人と本人をどりまく

左より佐々木義氏  
右より佐々木義氏

くお願い致  
します。

密談? 相談?  
怪談? .....

、横浜のある病院で守衛のアルバイト 寒い冬でよく雪が降っていた。Kさんの男の人と2人で見回りや電話番をし は小指が無くてイレズミをしていてボ 金を借りた。イレズミと小指にボクは する限りの笑顔でお金を貸した。どうい 次の日には返してくれた。今はどうだ が、当時横浜長者町周辺には浮浪者が ベンチで寝たり噴水で頭を洗ってい て酒盛してたりほんとに多かつた。

典子

かに近づいた。すると、母の顔がうつむかって、涙がこぼれる。母は泣き声で「おまえが死んでくれたから、おまえが死んでくれたから」と繰り返す。母の顔が夜になるとウチの病院によく訪れる何とか入ってこようとする。鍵さえれば入ってこれないのでいいと思うのだけれど、外に出てよくおっぱらった。それも殴り罵ったり。良いとは思わなかつたとも言わなかつたし、そればかりかイレや浮浪者をおかしくさえ感じていた。アムで少年遠による浮浪者の殺人があがじ冬のことでの日を境に彼らの姿つた。病院にも来なくなつた。こうしKさんも姿を消した。サラ金に追われて取り立て屋が病院にも来た。

実習日記

秋吉

母は嫌いです」と書いてしまつた。いざ黒板の前に立つと母が期待に満ちた目で私を見ている。私は急に罪悪感に陥りいたたまれなくなつて、全く書いていないその作文を述べたて、最後に「大好きなお母さん、ありがとう」と結んでしまつた。

授業参観の後、皆作文を手にして母親と散つて行ったが私は作文を捨ててしまった。母は無論私の気持ちちは知らずうれしそうにしていたが、私にはそれが余計に悲しかつた。母の無知さを怨み、自分のふがいなさが腹立つしかつた。

母の気持ちは氣にして自分にウソをついて良かったのか、母の気持ちは解さず自分に正直でいれば良かった

原勝巳：「どうして、K君が浮浪者になってしまったのか、15年たった今でもよくわからない。思い出して考えれば考える程、どこかが悶える思いである私にとっては、いまだに思い出としてそのままにしておけない大事なのだ。」

たからだと思う。人でなく車で

# 人として

ノムがいがに本ノの障害を認識しそのうえにたちどのように行動(努力)すらかである。

学生の頃  
をやった。  
という年輩  
た。Kさん  
フによくお  
とも手を

う訳か必ず  
か知らない  
多く公園の  
たり、集つ  
その人た  
士。寒いか  
かけていれ  
がKさんは  
ったり蹴つ  
がボクは何

横浜スタジ  
ったのも同  
を見なくな  
て何日か後  
ていたらし  
あの時ボ  
を感じたの  
てならない  
かに人とし

意識があつ

ヒト  
[人]

man/  
*Homo sapiens*

は困難であるが、犬歯が短く、歯の形態や並び方がヒトによく似ている。その後アウストラロピテクス *Australopithecus*, 原人 *Homo*

*erectus*, 旧人 *H. s. neanderthalensis* の名で、設闇を経て現代のヒトに達した。

卷之三

JAPONICA  
万有百科大事典より

1